

令和7年度
日本臨床歯科補綴学会
学術大会プログラム・抄録集

『咬合と Longevity 』
—2025 年問題へのヒント—



日 時： 令和7年6月29日（日）10：00 ～ 16：30

場 所： パピヨン24 ガスホール
福岡市博多区千代1-17-1 3F

大 会 長： 小山 浩一郎
実行委員長： 神田 亨
準備委員： 土肥 博幸・村岡 卓也
後 援： 新東京歯科技工士学校・新東京歯科衛生士学校
博多メディカル専門学校



理事長挨拶

日本臨床歯科補綴学会（JCPDS）理事長

神奈川歯科大学客員教授

宮本 績輔

団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となり、国民の 4 人に 1 人が 75 歳以上という超高齢社会を迎えたいわゆる 2025 年問題により、医療や介護などの社会保障費の増大が懸念されております。そのような中、私共日本臨床歯科補綴学会では、日本国民の健康長寿に貢献すべく、顎機能に調和した咬合の再構成と機能保全のための診断と治療の基準をお示ししてまいりました。

私共はこれまで主に東京・新潟において学術大会を開催してまいりましたが、この度 2025 年 6 月 29 日（日）、初めて九州にて皆様にお会いする機会を得ることができました。本学術大会へは全国から補綴歯科に携わる歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士・関連企業の方など、多くの参加者が見込まれており、安全で予知性の高い治療を行うための一つの道標を共有すべく、関係者一同準備を進めてまいりました。

今回の学術大会では、ここ九州で長く臨床、研究、教育の現場に携わってこられた、糸瀬正通先生・水上哲也先生のお二方を特別講演の演者としてお迎えし、ご参加の皆様にとって、明日からの臨床に活力を与える大変有意義で興味深いお話をお聞かせいただきます。さらに当学会顧問・小出 馨先生による基調講演、副理事長・内田剛也先生による特別講演、ならびに本会会員 4 名による教育講演を企画致しました。

今まで遠方でなかなかお会いできませんでした皆様にもぜひ会場まで足をお運びいただき、博多の地で夢多き近未来の歯科治療について、ご意見を交換できることを楽しみにしております。



大会長挨拶

日本臨床歯科補綴学会副理事長

小山 浩一郎

例年東京で行われておりました当会学術大会を、この度、九州は福岡の地で開催させて頂く運びとなりました。

今回のテーマは「咬合と Longevity ～2025 年問題へのヒント～」とさせていただきます。2025 年問題がクローズアップされたのは 2014 年の事でした。「将来的に口腔機能の維持・回復を目指す「治療・管理・連携型」の歯科治療の必要性が増す」と予想されてきましたが、口腔機能の維持・回復のためには基本として「できるだけ歯を残すこと、欠損部位をいかに機能回復させるか」が欠かせない命題となってきます。8020 財団による永久歯の抜歯原因調査報告によると 2005 年、2018 年とも第一位は歯周病で 41.8%、37.1%となっており、第二位がう蝕、第三位は破折ということです。

今回は基調講演に小出馨先生（日本歯科大学名誉教授）、特別講演として、水上哲也先生（九州大学歯学部臨床教授）に「セメント質剥離」について。半世紀近くインプラント治療に携わっておられる糸瀬正通先生（近未来オステオインプラント学会顧問）に長年に亘るご経験を、当会副理事長の内田剛也先生（鶴見大学歯学部臨床教授）にもご発表頂きます。また、教育講演として、森野隆先生（日本歯科技工士会会長）、早川順満先生（青葉台歯科診療所）、崎田竜仁先生（鹿児島ミリングセンター代表）、池上龍朗先生（富山歯科クリニック）をお願いしております。

口腔機能の Longevity をご参加の皆様と共に考えてまいりたいと存じます。

会場周辺図・会場案内図

【パピヨンガスホール】 福岡市博多区千代 1-17-1 3F

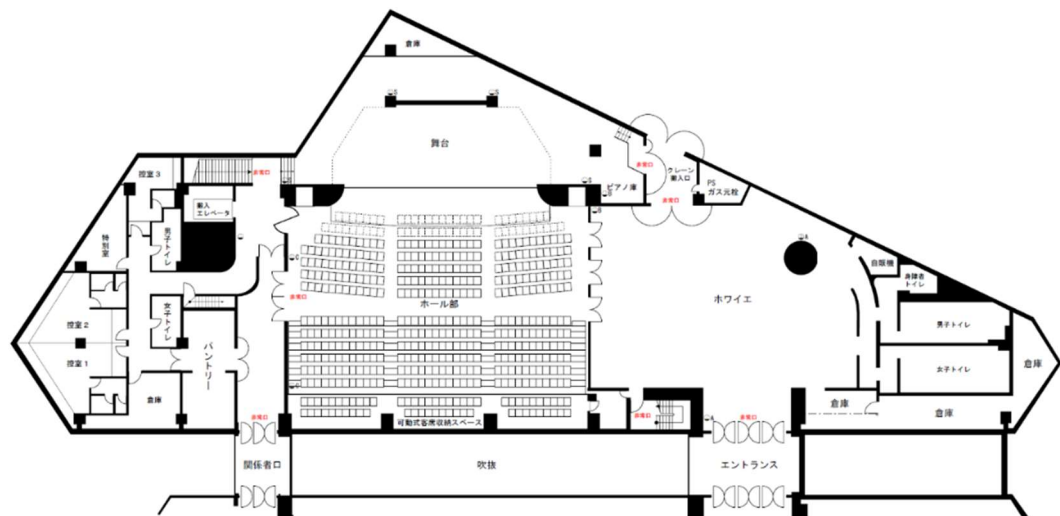
地下鉄「千代県庁口」・4番出口と直結

福岡空港・博多駅方面からは「中洲川端」で乗り換え（エスカレーターで1番ホームへ）、貝塚行き（箱崎線）にご乗車下さい

天神方面からは貝塚行き（箱崎線）にご乗車下さい



ガスホール シアター形式図面



プログラム

《開会式》 9:50 ～ 司会： 神田 亨

開会の辞 日本臨床歯科補綴学会副理事長 藤田 良磨

理事長挨拶 日本臨床歯科補綴学会理事長 宮本 績輔

《午前の部》 10:00 ～ 司会： 三浦 康伸

【教育講演 1】 座長： 星 久雄

健康寿命延伸に貢献する歯科技工士の役目

森野 隆（公益社団法人 日本歯科技工士会会長）

【教育講演 2】 座長： 西川 新

咬合治療で実践する Longevity と健康長寿への貢献

早川 順満（青葉台歯科診療所）

【教育講演 3】 座長： 白石 大典

咬合の再構成にデジタルの可能性

崎田 竜仁（鹿児島ミリングセンター）

【教育講演 4】 座長： 児玉 敏郎

その入れ歯、寝る時外して大丈夫？

～Longevity に不可欠な夜間の装置装着を考える～

池上 龍朗（医療法人池上医院 富山歯科クリニック）

《午後の部》 12 : 50 ～ 司会 : 村岡 卓也

【基調講演】 座長 : 宮本 績輔

咬合と Longevity

小出 馨（日本歯科大学名誉教授）

【特別講演】 座長 : 小山 浩一郎

開業 52 年間の経験則 ～その経営方針と姿勢～

糸瀬 正通（近未来オステオインプラント学会）

【特別講演】 座長 : 土肥 博幸

歯周病の急激な悪化の要因とその対策

水上 哲也（九州大学歯学部臨床教授）

【特別講演】 座長 : 浅野 栄一郎

顎関節症を伴う重度歯周炎患者の外傷性咬合のコントロール？

内田 剛也（鶴見大学歯学部臨床教授）

《閉会式》 16 : 30 ～ 司会 : 神田 亨

大会長挨拶 日本臨床歯科補綴学会副理事長 小山 浩一郎

【教育講演－1】

健康寿命延伸に貢献する歯科技工士の役目

日本臨床歯科補綴学会副理事長

森野 隆

日本の人口は減少している一方、高齢化は進んでいます。それに伴い国民の医療費は年々増大している中、それを抑制するには健康寿命の延伸が重要であり、それを果たすためには、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士を含めた歯科医療の役目は大きいと考えます。

しかしながら、その一翼を担う歯科技工士の数は減少しています。総数は減少しているが、不足しているのか、それを正確に判断するには、日本の人口、歯科医師の数、歯科医院の数、歯科の診療行為別の数等を正確に把握し、検証する事が重要で、その数値により現在、また未来の予測を含め議論をすることが必要に思います。世の中で使用される数値はその使用目的によりバイアスがかかり、信用するのは危険なものが多くありますし、数値だけで判断することができない事案も多く存在します。今回は、正確な数値をお示しし、現状をご理解して頂こうと思います。

また、歯科技工士の全体数とは別に、現在義歯を製作する歯科技工士（所）が少なく、歯科医療機関や、患者様にも影響が出始めている話がでています。8020 運動の成果もあり、残存する歯数が増えたとはいえ、高齢化が進んでいる日本で、ある一定数の方々は義歯を使用している現状で、その義歯を製作する歯科技工士（所）が減少していることは、健康寿命の延伸には大きな影響があることは周知の事実です。

この現状を正確に理解し解決するためにも、現在、歯科技工士が歯科診療内でできる事、また、今後どの様にすれば歯科技工士がより多く健康寿命の延伸に貢献できるようになるのか、現行法を含めお示ししたいと思います。

なぜ、歯科技工士を目指す者が減少しているのか、義歯を製作する歯科技工士が減少しているのか、今何をすべきなのか、将来に向けて何をすることが必要なのか、問題は多岐にわたりますが、現状把握と未来に向けて皆様と情報を共有し考えていきたいと思います。



森野 隆 もりの たかし

公益社団法人日本歯科技工士会会長

【略 歴】

- 1993年 歯科技工所開設
- 2008年 社団法人静岡県歯科技工士会理事
- 2013年 公益社団法人静岡県歯科技工士会副会長（～ 現在）
- 2014年 公益社団法人日本歯科技工士会常務理事（教育研修）
- 2015年 日本臨床歯科補綴学会 副理事長（～ 現在）
- 2016年 公益社団法人日本歯科技工士会副会長（教育研修統括）
- 2022年 公益社団法人日本歯科技工士会会長（～ 現在）

【所属学会】

- 日本臨床歯科補綴学会
- 日本歯科技工学会
- 日本顎咬合学会
- 日本スポーツ歯科医学会

【掲載書籍・論文】

- ・臨床機能咬合学（医歯薬出版，2022年）共著
- ・デザインング・コンプリートデンチャー（医歯薬出版2019年）共著
- ・クリニカル・クラスプデンチャー（医歯薬出版，2025年）共著
- ・基本クラスプデンチャーの設計（医歯薬出版，2020年）共著
- ・新版・臨床が楽しくなる咬合治療（デンタルダイヤモンド，2025）共著
- ・チェアサイドで行う顎機能検査のための基本機能解剖（医歯薬，2020年）共著
- ・歯科技工「目指せ！未来のスーパーテクニシャン」医歯薬出版，2015年）
- ・歯科技工のおもしろさ（口腔保健協会，2015年）共著

【教育講演－2】

咬合治療で実践する Longevity と健康寿命への貢献

青葉台歯科診療所

早川 順満

現在、超高齢社会となっている日本において、健康長寿延伸を達成するために歯科医療は重要な役割を担っており、そして、患者が高齢化すると共に避けては通れない治療のひとつに欠損補綴治療があり、それに伴う咬合治療がある。

厚生労働省の「2016年歯科疾患実態調査」では、何らかの義歯（ブリッジ・部分床義歯・総義歯）を使用している人の割合は年齢とともに高く、後期高齢者では84%にも達している。また、後期高齢者の約3割の人が総義歯を使用しているとの調査結果が出ている。

日本は2007年に高齢化率が21%を超え超高齢社会となり、今後もその割合は増加傾向との見通しになっている。そのため健康政策として健康日本21（厚生労働省）があるように、如何にして健康寿命の延伸を図ることが我が国の重要な課題のひとつとなっており、その中には歯科の重要性が含まれている。つまり、超高齢社会において歯科医療による貢献は健康長寿延伸のために必要不可欠なものであり、欠損補綴治療や咬合治療は患者の高齢化に伴い、歯科医師にとっても益々重要な治療のひとつとなってくると思われる。

しかしながら、欠損補綴治療ならびに咬合治療は、決して容易なものではなく、また、Longevityの達成には様々な障壁のある難しい治療のひとつとして、苦手意識を持たれている先生方もおられるのではないだろうか。事実、咬合治療には様々な要因による下顎位の偏位などの問題から難症例と考えられる症例が多々あり、臨床で遭遇した際に苦労した経験は誰もが思う。私自身も、以前は臨床で悪戦苦闘と試行錯誤の日々を送っていたが、当学会を通じて素晴らしい先生方と出会い、その豊富な臨床経験や研究などを通して辿り着いた知識や技術などを享受させて頂いたことで、私なりに、臨床で患者に喜んで頂ける良好な結果を得られるようになったと感じるようになった。

本講演では、身体的要因が関与した下顎位の偏位により、日常生活に大きく支障をきたしていた患者に、当学会のコンセプトに沿って欠損補綴治療ならびに咬合治療を行い、その経過から、私なりのLongevityと健康長寿延伸への貢献についてお話しさせて頂きたいと思う。

本講演の内容が、健康長寿延伸への貢献と、先生方の日常臨床の一助として少しでもお役に立てれば幸いである。



早川 順満 はやかわ よりみつ

青葉台歯科診療所

【略 歴】

- 2006 年 奥羽大学歯学部 卒業
- 2006 年 新潟大学歯科病院総合診療科 勤務
- 2007 年 おおぶち歯科（静岡県） 勤務
- 2010 年 青葉台歯科診療所

【所属学会】

- 日本臨床歯科補綴学会 専門医
- 日本補綴歯科学会 認定医
- 日本顎咬合学会
- スポーツ歯科医学会

【掲載書籍・学会発表】

- ・臨床機能咬合学（医歯薬出版，2022年）共著
- ・デザインング・コンプリートデンチャー（医歯薬出版2019年）共著
- ・クリニカル・クラスプデンチャー（医歯薬出版，2025年）共著
- ・基本クラスプデンチャーの設計（医歯薬出版，2020年）共著
- ・新版・臨床が楽しくなる咬合治療（デンタルダイヤモンド，2025）共著
- ・チェアサイドで行う顎機能検査のための基本機能解剖
（医歯薬，2020 年） 共著
- ・平成 23 年度 日本臨床歯科補綴学会 学術大会（特別講演）
- ・平成 27 年度 日本臨床歯科補綴学会 総会・学術大会（会員発表）
- ・平成 28 年度 顎咬合学会 関東甲信越支部学術大会（会員発表）

【教育講演－3】

咬合の再構成にデジタルの可能性

(株) 鹿児島ミリングセンター

崎田 竜仁

近年、歯科医療のデジタル化が急速に進展し、特に口腔内スキャナーの普及に伴い、従来の印象採得や石膏模型の作業が減少しつつあります。この変化は歯科医療および歯科技工のワークフローに大きな影響を与えることが予想されます。現在ではアナログワークフローから、口腔内スキャナーで取得したデータを基に補綴物のデザインや加工機による製作を行う、モデルフリーなデジタルワークフローへの移行が進んでいます。

しかし、デジタル技術が進化する一方で、デジタル化が難しい症例も依然として存在します。例えば、無歯顎の総義歯の場合、イソコンパウンドによる辺縁封鎖やシリコン材による加圧印象が必要となり、口腔内スキャナーではこれらの加圧作業が困難です。ただし、インプラントを埋入することでデジタルワークフローの適用が可能になる可能性があります。

少数歯欠損のインプラント症例では、従来のスキャンボディを用いたスキャンが行われています。一方、多数歯インプラント症例では、インプラント間の距離が離れていることから、口腔内スキャナーによる撮影が難しく、多くの方々がその対応に苦勞しています。特にインプラント症例では模型が必要となることが多く、コンタクトや咬合、位置関係の確認が欠かせません。このような課題は、現時点でのデジタル技術の限界を感じさせるものです。

これらの問題に対処するため、私はデジタルワークフローをさらに進化させるべく、これらの課題について検証を行いました。具体的な解決策を模索することで、デジタル技術を活用したより効果的な歯科技工の可能性を広げたいと考えています。



崎田 竜仁 さきた りゅうじ

(株) 鹿児島ミリングセンター

(株) CARES ソリューションセンター

【略 歴】

- 1986 年 鹿児島歯科学院 歯科技工士科 卒業
- 1987 年 国際デンタルアカデミーラボテック 卒業
- 1997 年 アートデンタルラボ 開業
- 2009 年 株式会社鹿児島ミリングセンター 開業
- 2018 年 株式会社 CARES ソリューションセンター 開業

【所属学会】

- 日本臨床歯科補綴学会
- 日本デジタル歯科学会 代議員
- 日本口腔インプラント学会
- 日本補綴歯科学会
- 日本歯科審美学会
- ITI Fellow
- Wクリック

【掲載書籍・論文】

- ・モノリシックジルコニア補綴装置の技工（日本評論別冊 2021）
- ・デジタル化が進む歯科技工界におけるラボ内教育と IOS への対応（歯科技工 2023.2）
- ・デザインング・コンプリートデンチャー（医歯薬出版2019年）共著
- ・クリニカル・クラスプデンチャー（医歯薬出版，2025年）共著
- ・基本クラスプデンチャーの設計（医歯薬出版，2020年）共著
- ・新版・臨床が楽しくなる咬合治療（デンタルダイヤモンド，2025）共著

【教育講演－4】

その入れ歯、寝る時外して大丈夫？

～Longevity に不可欠な夜間の装置装着を考える～

医療法人池上医院 富山歯科クリニック

池上 龍朗

『入れ歯は外して寝て下さい』

日々の臨床で私たちは何気なく患者さんに説明しますが、これで本当に正しいのでしょうか？

多大な時間と労力が費やされ、患者さんには多くの忍耐を強いて、最終補綴修復物は装着されます。たとえその補綴装置が適切な咬合関係を有し、歯周組織が健全に治癒していたとしても、歯周組織と咬合関係、補綴装置そのものが長期間にわたって維持管理出来なければ、折角の治療は台無しになります。

治療が終了した瞬間から、コントロール困難で過酷な咬合力に晒される口腔組織と補綴装置の破壊リスクを如何にして軽減するか、これがとても重要です。歯と咬合の Longevity を考えるには、その中でも特に Bruxism への対応が不可欠と言えますが、夜間に義歯を外した状態で果たしてそれは達成出来るのでしょうか。

義歯を装着するそもそもの目的は何なのか。スプリント等その他装置がどのように必要なのか。

今回は、夜間の Bruxism への対応を踏まえ、就寝時の義歯を含めた装置装着について考えてみたいと思います。本発表が皆様の明日からの臨床の一助となれば幸いです。



池上 龍朗 いけがみ たつお

医療法人池上医院 富山歯科クリニック

【略 歴】

- 2000 年 九州大学歯学部卒業
九州大学歯学部附属病院 第二補綴科 研修医勤務
- 2002 年 九州大学大学院（歯学研究院口腔機能修復学講座）入学
- 2006 年 同大学院 卒業
福岡県福津市 水上歯科クリニック 勤務
- 2010 年 福岡県北九州市 富山歯科クリニック 開業
- 2023 年 医療法人池上医院へ名称変更

【所属学会】

- 日本臨床歯科補綴学会 認定専門医
- 日本臨床歯周病学会 認定医
- 日本臨床歯周病学会 歯周インプラント認定医
- Japan United Colleagues (JUC) 会員
- OJ 理事
- 日本歯周病学会 会員
- 日本口腔インプラント学会 会員
- 日本顎咬合学会 会員
- 近未来オステオインプラント学会 会員

【基調講演】

咬合と Longevity（健康長寿） — 2025 年問題への咬合を基軸とした貢献 —

日本臨床歯科補綴学会顧問

小出 馨

我が国は、総人口が 2010 年をピークに減少の一途をたどっている中で、団塊の世代が全員 75 歳以上の後期高齢者になる“2025 年問題”に直面している。既に後期高齢者は 5 人に 1 人にまで急増し、医療や介護の体制、労働力不足など様々な問題が深刻化している。また、100 歳以上の人口は現在 9 万 6 千人に達しており、25 年後には 70 万人にまで急増する。平均寿命まで 20 年後には 100 歳に達する見通しである。この未曾有の超高齢社会に対応して国民を支えるには、健康寿命の延伸が急務であり、この大きな課題を私達歯科医療者も担うことになる。

ここで言う“Longevity”とは、単なる長寿ではなく、健康的に長生きして人生を楽しむことを意味する。これまでも歯科医療は、歯列をはじめとする顎口腔系の再建と保全による諸機能の維持を図り、国民の健康寿命延伸に貢献してきた。そして近年、いよいよ咬合が“Longevity（健康長寿）”に及ぼす影響の大きさが注目されている。私達歯科だけが行える咬合治療は、咀嚼、嚥下、呼吸、発音、聴覚、口腔感覚、審美、姿勢維持、身体運動など、顎口腔系に限らず全身のさまざまな機能も維持・増進している。また咬合治療は、フレイルやサルコペニア、ロコモティブシンドロームの予防、さらに前頭前野や海馬をはじめとする脳機能の活性化による認知症予防、さらに生きることへの意欲の回復、精神・心理状態の改善にまで効果を発揮する。

このように咬合治療は、患者さんの QOL に大きく影響を及ぼし、“Longevity（健康長寿）”や人生の満足度の観点からも極めて重要な役割を果たしている。そして、今後の更なる超高齢社会では、これまで以上に顎口腔系の経年変化を診断して的確に対応することが強く求められる。

本学会は、これまで 35 年にわたり国民の“Longevity（健康長寿）”に貢献すべく、顎機能に調和した咬合再構成とその長期的機能保全のための診断と治療の基準を探究し、実際の臨床に即して示してきた。術前に適正な顎機能診断を行い、顎口腔系と調和した咬合構成を確実にを行い、長期にわたって維持することが、全身の健康長寿すなわち“Longevity”を達成するうえで重要・不可欠である。

また近年、チェアサイドとラボサイド双方におけるデジタルデンティストリーの技術革新が急速に進展することにより、患者負担の軽減とともに、より速く快適かつ安全な歯科医療の提供が実現できるようになって来たことも“Longevity”に大きくかわる事象である。

今回の学術大会では、直面する未曾有の超高齢社会にあって、国民の“Longevity”達成に有益な対応策を、それぞれの専門分野に精通する特別講演と教育講演の講師の先生方に、臨床に即してお示しいただく。是非とも明日からの臨床に活かしていただきたい。



小出 馨 こいで かおる

日本歯科大学名誉教授

【略歴】

- 1972年 3月 新潟県立新潟高等学校卒業
- 1979年 3月 日本歯科大学新潟歯学部卒業
- 1983年 3月 日本歯科大学大学院修了
- 1984年 4月 日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学教室第1講座講師
- 1988年 5月 カナダ・トロント大学歯学部補綴学教室客員教授（2006年まで）
- 1998年 4月 日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第1講座主任教授
日本歯科大学大学院新潟生命歯学研究科機能性咬合治療学主任教授
- 1999年 4月 日本歯科大学新潟歯学部附属病院顎関節外来統括責任者併任（2003年まで）
- 2001年 4月 日本歯科大学新潟歯学部附属病院技工科長併任、技工研修科長併任（2003年まで）
日本歯科大学新潟歯学部附属病院顎機能検査室長併任・言語治療室長併任（2003年まで）
- 2022年 1月 日本歯科大学名誉教授

【主な受賞等】

- 2002年 日本補綴歯科学会・優秀論文賞
- 2008年 アジア歯科補綴学会・最優秀学会発表賞
- 2015年 日本補綴歯科学会・学会賞
- 2016年 日本スポーツ歯科医学会・学会賞
- 2022年 日本補綴歯科学会・名誉会員
- 2024年 日本補綴歯科学会・特別功労賞

【主な現在までの役職等】

日本国最高裁判所鑑定委員、日本補綴歯科学会監事、日本スポーツ歯科医学会監事、日本補綴歯科学会理事、日本臨床歯科補綴学会会長、日本全身咬合学会副理事長、国際口腔インプラント会議日本部会副会長、日本全身咬合学会常任理事、日本全身咬合学会学術担当事務、日本臨床歯科補綴学会理事、日本臨床歯科補綴学会顧問、国際口腔インプラント会議理事、国際口腔インプラント会議日本部会理事、日本スポーツ歯科医学会理事、日本顎関節学会理事、日本咀嚼学会理事、日本接着歯学会理事、日本顎咬合学会評議員、日本審美歯科学会評議員、JAPAN UNITED COLLEGEUES(JUC)学術顧問、Basic Dental Practice Group(BDPG)学術顧問、日本スポーツ歯科医学会学術大会大会長、日本全身咬合学会学術大会大会長、日本臨床歯科補綴学会学術大会大会長、国際口腔インプラント会議専門医、日本補綴歯科学会指導医・専門医、日本顎関節学会指導医・専門医、東北大学非常勤講師、九州大学非常勤講師、広島大学非常勤講師

【主な研究開発・特許等】

- ・プロアーチ咬合器シリーズ 全8機種（Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型、ⅢE型、Ⅳ型、Ⅰ-G型、Ⅱ-G型、ⅢE-G型）
 - ・リンガライズドオクルージョン用4歯連結硬質レジンブレード白歯：e-HaQクワトロブレード
 - ・パーシャルデンチャー用硬質レジン白歯人工歯：e-Ha8ポステリア
 - ・リンガライズドオクルージョン用解剖学的硬質レジン白歯人工歯：Bio-Lingua
 - ・プロアーチ・オクルーザルプレート・アナライザー
 - ・プロアーチ・人工歯排列用テンプレート
 - ・プロソマチック・ゴシックアーチトレーサー
 - ・プロソマチック・SCMレコーダー（顎頭運動経路描記装置）
 - ・パラジェット義歯重合弾性材埋没重合システム
 - ・身体動態測定解析システム・バイオメカアナライザー（頭位・姿勢・足圧・重心動揺度測定装置）：ToMoCo-LL
 - ・顎頭運動経路デジタル解析システム：J-Scan
- その他 117 件

【近年の主な臨床関連著書】

- ・DAWSON・FUNCTIONAL OCCLUSION 監訳【改訂新版】（医歯薬出版 2013）
- ・クリニカルクラスデンチャー 書籍化第1版（医歯薬出版 2025）
- ・新版・小出 馨の臨床が楽しくなる咬合治療―改訂版―（デンタルダイヤモンド 2025）
- ・デザインング・コンプリートデンチャー 書籍化第1版（医歯薬出版 2019）
- ・基本クラスデンチャーの設計―新版― 書籍化第1版（医歯薬出版 2020）
- ・臨床機能咬合学―咬合の7要素によるオクルージョンの臨床― 書籍化第1版（医歯薬出版 2022）
- ・チェアサイドで行う顎機能検査のための基本機能解剖 書籍化第1版（医歯薬出版 2023）
- ・咬合器の大事なこと・デンタルエコー全10回連載（松風 2021-2023）
- ・インプラント治療における顎機能診断と咬合構成の要点―前編/後編―（歯科医療：第一歯科出版 2024/25）
- ・咬合治療の達人になる―小出馨教授の秘訣―（Shanghai Yiya Medical Technology Co.,Ltd 2024 中国）
- ・Functional Occlusion；臨床機能咬合学―基本7要素の臨床咬合学―（鳳凰医学出版社 2022 中国） その他 40 冊 以上

【特別講演】

開業 52 年間の経験則 ～その経営方針と姿勢～

近未来オステオインプラント学会名誉会長

糸瀬 正通

開業したその日に急性肝炎で入院し、3ヶ月の療養生活を余儀なくされた。それから52年間現在まで臨床できるとは思ってもいなかった。大学卒業後2年目に長崎県の離島対馬で開業していた父親が急病で長期療養が必要となり、その後1年間離島での診療を行なった。当時は総義歯患者が多く、総義歯製作の経験がない上に歯科技工士もいなかったのもので、夜遅くまで総義歯の教科書を横に置き、咬合床製作、人工歯排列、重合、研磨を訳がわからない状態で製作し、装着していた。

1973年（52年前）28歳の時に福岡市で開業した。咬合の問題を抱えた患者も多く、離島での総義歯、局部床義歯の悪戦苦闘から興味が湧き、いろんな総義歯、局部床義歯での研修会に参加していた折、故横田亨先生のハイドロキャストプログラム法による総義歯コースを受講し、無歯顎の咬合理論と治療法に感銘を受け、現在でも難症例ではその手法が基本となっている。咬合崩壊の症例で全顎治療を行う際、咬合高位、顎位、歯列弓等総義歯治療の概念が役に立ったのは間違いない。その後、1978年（47年前）恩師河原英雄先生から教えていただいたバイオセラムインプラントを取り入れた時が、私の歯科臨床の大きな転換期となった。1980年代に入ると故下川公一先生、故筒井昌秀先生を交え、不安定顎位を模索するためのスプリント療法、矯正治療、硬軟組織歯周外科処置、そして最終補綴にもっとも調和と機能を求めたプロビジョナルトレーションの重要性を症例を持ち寄って、よく議論したのがつい昨日の様である。前向きな姿勢で臨床を行なっていれば、国内外の素晴らしい先生方と出会う機会も多くなり、当学会創設者の小出馨教授とも出会い、咬合理論、治療はもとより歯科医師としての生き方など今でも学ばさせていただき、深く感謝している。私が開業52年間行なってきた、歯科医院経営の私見を述べてみたいと思う。



糸瀬 正通 いとせ まさみち

近未来オステオインプラント学会名誉会長

【略 歴】

- 1970 年 神奈川歯科大学卒業
- 1970～1973 年 同大学附属病院勤務
- 1973 年 糸瀬歯科医院勤務
- 1974 年 歯科糸瀬正通医院開設
- 1983～1989 年 久留米大学医学部第 2 解剖学教室 研究生
- 1989 年 医学博士取得

【所属学会】

近未来オステオインプラント学会

【掲載書籍】【論 文】

- ・ 歯を直すは愛の業 共著
- ・ デンタルイマジネーション 共著
- ・ 家庭の歯学 共著

その他

【特別講演】

歯周病の急激な悪化の要因とその対策

医療法人水上歯科クリニック理事長
九州大学歯学部臨床教授

水上哲也

歯周治療後に適切なメンテナンスを行っているにもかかわらず、急激なアタッチメントロスや骨吸収、あるいは発赤腫脹などの急性症状を呈する症例にしばしば遭遇する。

臨床医を悩ますこれらの状況を生み出す原因には歯周病の悪化以外にも歯根破折、エンドペリオ病変、外部性歯根吸収などの要因が挙げられる。なかでもセメント質剥離は患者の高齢化に伴い、偶発的に発症する疾患として近年注目されている。セメント質剥離はセメント質の一部がセメント質-象牙質境あるいはセメント質内で剥離した状況を指すが、剥離した時点では感染を伴わず、機械的刺激による結果として骨吸収を生じさせる。持続的な炎症による骨吸収の拡大とともに歯周ポケットなどを通して口腔との交通路が生じた時点で一気に感染が進行し、急速に骨破壊が起きると考えられている。

セメント質剥離の発生率は Keskin らによると 0.89%、Özkan らによると 1.9%とされている。しかしながら我々の臨床実感からは実際はその数値よりもはるかに多いと感じられる。セメント質が剥離したことが重篤な骨吸収の原因となっていることに気づかずに抜去されることが日常的に行われているのではないだろうか。

我が国では8020運動が功を奏したこともあり、高齢者における残存歯数が増加している。このことがセメント質剥離の罹患率が過去の報告よりも多く感じられる一因となっていることは否めない。剥離が好発する年齢は60才以上、性別では男性に多いとされ、上顎中切歯などが好発部位と考えられてきた。また、セメント質剥離の原因として加齢や咬合が挙げられている。

セメント質剥離は従来、抜歯適応の疾患と捉えられてきた。しかしながらその病態が少しずつ明らかになるとともに適切な処置をほどこせば中長期にわたり生存することも報告されている。確実な剥離片の除去と剥離した歯根面の除染と平滑化が治療結果に影響を及ぼす。また、剥離部位が根尖側にあるか、歯頸側にあるか、あるいは剥離数が複数に及ぶか否かによって治療の難易度が左右される。そして現時点では未だ確実な治療方法は確立されていない。

今回の講演では少しずつ明らかになってきたセメント質剥離の臨床的特徴と診断、そしてその対処方法について臨床例をもとに考察してみたい。



水上 哲也

みずかみ てつや

九州大学歯学部臨床教授

【略 歴】

- 1985 年 九州大学歯学部卒業
- 1987 年 九州大学第 1 補綴学教室文部教官助手
- 1989 年 西原デンタルクリニック勤務
- 1992 年 福岡県福津市（旧宗像郡）にて開業
- 2007 年 九州大学歯学部臨床教授
- 2011 年 鹿児島大学歯学部非常勤講師

【所属学会】

- 日本歯周病学会 指導医・専門医
- 日本顎咬合学会 指導医
- 日本臨床歯周病学会 認定医
- 近未来オステオインプラント学会 指導医
- 日本口腔インプラント学会 会員
- 日本臨床歯科補綴学会
- 日本補綴歯科学会 会員
- 米国歯周病学会（AAP）会員
- 米国インプラント学会（AO）会員

【掲載書籍・論文】

- ・山道信之，林佳明，牧角新蔵，河原三明，水上哲也．インプラントイメージネーション さらなる適応症拡大への技．クインテッセンス出版，2004．
- ・水上哲也（監修），池上龍朗，下田裕子（著）．インプラント治療はチームアプローチ 検査・診断・手術・コンサルテーション．医歯薬出版，2009．
- ・Japan United Colleagues（編），水上哲也（代表）．もう迷わない根分岐部病変 根分岐部病変の治療はどう進化したのか？ 総括と展望．ヒョーロン・パブリッシャーズ，2013．
- ・水上哲也、フラップデザイン ベーシック編：4 つの要素でわかる再生療法の切開線の理由、原則、組み立て，クインテッセンス出版，2013．
- ・水上哲也、フラップデザイン アドバンス編：最新のフラップデザインのコンセプトと術式、クインテッセンス出版，2023．

【特別講演】

顎関節症を伴う重度歯周炎患者の 外傷性咬合のコントロール？

日本臨床歯科補綴学会副理事長

内田 剛也

歯科治療においては「咬合の維持により健康寿命の延伸」が重要な使命であると思います。近年「歯の喪失防止」が進む一方で4mm以上の歯周ポケット有する割合は45歳以上で過半数であり、「2018年第2回永久歯の抜歯原因調書」では歯周病が37.1%の抜歯原因第一位であると8020推進財団は報告しています。中等度以上に進行した歯周炎では歯周組織の支持力が低下するため、2次性咬合性外傷を生じます。このため受圧サイドの支持力向上を目的とした口腔機能回復治療による咬合性外傷のコントロールは、プラークコントロールと同様に重要となり、歯周治療後の健康な歯周組織の維持には「炎症のない歯周組織と安定した咬合」が不可欠となります。歯周治療後のメンテナンス時に抜歯となる原因の第1位が歯根破折であるというAxelsson¹⁾らの報告からも「残存歯の保護と歯列の連続性の維持」には過重負担となる外傷性咬合に十分な配慮をする必要性を日々の臨床で感じています。

外傷性咬合との関連性が疑われるものとして睡眠時ブラキシズム、TCH(Tooth Contacting Habit:上下歯列接触癖)・態癖・睡眠時無呼吸症(口呼吸低位舌)・顎関節症(片側顎関節円板前方転位側に生じる習慣性咀嚼側)などが考えられます。本講演では特に顎関節症片側顎関節円板前方転位側と習慣性咀嚼側との一致性についてのMinagi²⁾らの報告に基づき、関節円板前方転位側(習慣性咀嚼側)に生じる過重負担により、動揺を伴う進行した歯槽骨吸収、歯の病的移動や歯肉退縮との外傷的な咬合力との関連性について顎関節症を伴う重度歯周炎患者の治療経過をとって過重負担が歯周組織回復に与える影響について皆様と考えたいと思います。最後に「外傷性咬合のコントロール」が困難と私が感じた症例に対して留意している事項について触れたいと思います。

1) Axelsson P : J Clin Periodontol ;31(9) :749-757, 2004.

2) Ratnasari A : J Oral Rehabil ,38:7-12 ,2011.



内田 剛也 うちだ たけや

鶴見大学歯学部歯周病学講座 臨床教授

【略 歴】

- 1986 年 日本大学歯学部卒業
- 2013 年 日本歯周病学会評議員
- 2014～2022 年 日本歯科大学新潟生命歯学部 非常勤講師
- 2015 年 ～現在 鶴見大学歯学部歯周病学講座 臨床教授
- 2023 年 日本歯周病学会理事
- 2024 年 日本臨床歯科補綴学会副理事長

【所属学会】

- 日本臨床歯科補綴学会；顎関節と噛み合わせ専門医（第 33 号）
- 日本歯科補綴学会：指導医（第 1225 号）
- 日本顎関節学会認定医（第 20 号）
- 日本歯周病学会：指導医（第 154 号）、歯周病専門医（第 337 号）
- 日本本臨床歯科医学会指導医（第 30 号）
- 日本顎咬合学会咬み合わせ指導医（第 742 号）

【掲載書籍・論文】

- ・口呼吸を伴う広汎型重度慢性歯周炎患者に行った包括的治療の 14 年経過
：症例報告，日本歯周病学会誌；第 67 巻，第 1 号，P51-65, 2025.
- ・習慣性咀嚼側に生じる咬合性ストレスの影響，
日本歯周病学会誌；第 66 巻，第 2 号，P77-84, 2024.
- ・顎関節症状を有する重度慢性歯周炎患者への包括的治療の 1 症例
日本歯科保存学雑誌；第 61 巻，第 1 号，P48-57, 2018.
- ・歯周治療の指針 2015、特定非営利活動法人 日本歯周病学会編
医歯薬出版, 2016.
- ・健やかにいきるための歯科医療～歯をまもる、咬合をまもる～
「健康な歯周環境を長期的に維持するには～歯周基本治療からみえてくる
もの～」、平成 26 年度日本歯科医師会生涯研修セミナーDVD Part 1；日本
歯科医師会, 2014.

会場内企業展示（50 音順）

- ・ 株式会社ガイドデント
- ・ 株式会社 KAWARYO 九州
- ・ 京セラ株式会社
- ・ 歯愛メディカル
- ・ 株式会社メディカルプロGRESS
- ・ 株式会社ヨシダ

＊展示場所：2F ホール前ロビー

— MEMO —

JCPDS